

平成31年3月25日

皆野町長 石木戸 道也 様

みなの魅力発掘・創造会議
座長 堀口 喜久

答 申 書

平成30年3月16日開催の第17回みなの魅力発掘・創造会議において諮問のあった下記の件について、別添のとおり答申します。

記

1 諮問事項

(1) 本町商店街の再生

1 答申の前提、基本的な考え方について

皆野町は、産業衰退を一因とする人口減少という大きな危機に直面しています。日野沢小学校と金沢小学校の廃校はその象徴的な出来事です。皆野町は、自然豊かな里山であり、観光資源もある良いところです。しかしながら、統合的な取組が弱く、訴求力に欠けている点が大きな課題です。

当会議では、この課題解決に向け「一流に学び行動する」として、世界に誇る商業観光都市「浅草」との交流を通じたまちの活性化に取り組んでいます。日野沢地区、金沢地区もすでに浅草の地において交流活動を実践し、その歩みを進めています。

浅草もかつては皆野町と同じように、まちの魅力が低下し、来訪者・再訪者、人口が減少した時期がありました。その際浅草は「VISIT 浅草 AGAIN」を掲げ、「浅草回遊性ネットワーク」の基軸活動を開始しました。その結果、日本や海外から多くの来訪者・再訪者、人口増加を維持するに至りました。「浅草回遊性ネットワーク」の活動は、今でも浅草の中心的な活動となっています。

この浅草の取組に学び、「皆野回遊性ネットワーク」という基軸活動（それぞれの事業や地域が密接につながり、回遊性を持つことでまちの魅力を創造・強化すること）を前提として、提案を実現していくことを基本的な考えとしています。

2 答申内容

(1) 本町商店街の再生（街並みの再生）

■現状と課題

かつて活況に沸いた本町商店街も、経営者の高齢化による後継問題、店舗の老朽化、大型店との競合等により店舗数は激減し、その中心的存在であったみなみの矢尾も平成29年8月をもってその歴史に幕を下ろしました。既に商店街としての形を留めていない現状にあっては、再生・活性化すべき実体としての街並みの再生とあわせ、何より地域を変えよう、共に取り組もうという町民気運の醸成が不可欠です。

町の表玄関である秩父鉄道皆野駅と、町内各地域への起点となる町営バス発着所が位置する本町商店街の再生は、単にそのエリアの賑わい創出にとどまらず、町活性化の第一歩として長期的な視野に立って取り組む必要があります。

■提案

上記課題の解決に向け次のとおり提案します。

①モニュメントの設置による街並みの再生

街並みの再生に当たっては、景観上の統一感を持たせることが必要である

が、建物等の改修による意匠の統一は困難であることから、モニュメントの設置により行う。

▶モニュメントの選定

町内外に広く公募することで町民気運の醸成を図るとともに、対外的な町のPRと来町のきっかけづくりとすることも効果的な手法であるが、一例として、これまでの浅草との交流事業（シティプロモーション事業）の成果を生かした具体案を示す。

【案】

雷門盆踊りにおいて浅草に大きなインパクトを与えた「櫓」をかたどったミニチュア（夜間点灯式）を設置し、街並みを醸成する。

消費者が物品に興味を持ち購入に至るまでの心理的活動の過程を構造化するAIDMA（アイドマ）の法則を踏まえ、観光客等が来町に至るまでの過程の心理面に櫓を用いたアプローチを行う。

浅草との交流事業で対外的に認知されはじめた「櫓」を基軸とし、町の周知、町への誘客を図る。

A t t e n t i o n : 注意喚起

- ・隅田川水面の祭典等への参加について、HP等で事前告知（皆野町を知る）

I n t e r r e s t : 関心

- ・隅田川水面の祭典で秩父音頭を披露（皆野町に関心を持つ）

D e s i r e : 欲求

- ・雷門盆踊りに、かつて秩父音頭まつりで使われていた櫓を設置。（歴史を感じる皆野町の櫓の周りを踊ってみたい）

M e m o r y : 記憶

- ・実際に櫓の周りで踊りを踊る。（皆野町が記憶に残る）

▼ **A c t i o n** : 行動

- ・秩父音頭まつり等に参加する。（皆野町を訪れる）

○浅草で体験した櫓のモニュメントが灯る街並みが、来町者をおもてなし（来町者によるSNS等での情報拡散も期待される）。

○櫓は、伝統ある秩父音頭まつりのシンボルであり、町民の町への愛着意識も醸成される。

▶設置場所

○秩父鉄道皆野駅から町営バス発着所までの区間

※エリアを限定した実証実験的な設置から始め、その効果検証を踏まえた上で拡大設置するなど、効率的、効果的な手法を検討する。

▶設置方法

○小・中学生、高校性をはじめ町民の協力を得て設置する。

▶期待される効果

○モニュメントの設置により街並みが醸成されることで、観光客等へのおもてなし感が演出される。

○夜間点灯式とした場合、交通及び防犯上の安全性の向上が図られる。

※設置に当たっては、秩父鉄道皆野駅から町営バス発着所、本町商店街までの経路の明確化が図られるよう設置手法を検討する。

○町民に協力を求め設置することで、総意の醸成が図られる。特に小・中学生、高校性との協働は、息の長い取組につながる。

②観光情報拠点・町内回遊の起点としての町営バス発着所の充実

本町商店街の再生を町の活性化の第一歩とし、町内各地域にその効果を波及させていくためには、その起点となる町営バス発着所の充実が不可欠である。観光パンフレットや町内飲食店等の情報を集約し提供するだけでなく、そこからアクセス可能な観光スポットのリアルタイム映像を流すなど、町内回遊の促進を図る。

▶期待される効果

○町営バスの利用者数の増加によりバスの収益性が向上する。また、収益性の向上如何によっては、運行本数の増便も可能となり、観光客の足、生活の足としての利便性も向上する。